

秋田県誕生 150年

秋田県ひとロメモ

顕彰制度

秋田県は、各分野で顕著な功績を残した県ゆかりの個人や団体をたたえる顕彰制度を設けています。主な制度として二つがあり、一つは「名誉県民」です。「県民が誇りとしてひとしく敬愛する方」が対象で、これまでに、昭和30年から6期知事を務めた小畑勇二郎氏（故人）を皮切りに、産業振興、医療関連の研究、国際平和の各分野で尽力した5人が顕彰されています。

もう一つは「県民栄誉章」です。「社会に明るい希望を与えるとともに秋田県の名を高めた者」を対象としており、これまでに個人19人と4団体が顕彰されています。最初の受章者は、プロ野球のロッテで3度にわたり打撃の三冠王に輝いた若美町（現男鹿市）出身の落合博満氏でした。



ロッテ時代、三冠王に3度輝き、県民栄誉章第1号となった落合博満氏



平成10年12月の選抜大会を制し、全国優勝50回の金字塔を打ち立てた能代工業高校バスケットボール部

それ以降もスポーツ分野で活躍した個人、団体が多く選ばれています。団体に初受章となったのは、能代工業高校（現在の能代科学技術高校）バスケットボール部。平成8～10年と3年続けてインターハイ、国体、選抜の全国3大会を制し、学校としての全国優勝が50回に達したことが受章の理由となりました。

直近では、平成30年の第100回全国高校野球選手権（夏の甲子園）で準優勝した金足農業高校野球部が受章しています。これからも、スポーツに限らず、さまざまな分野で県民を勇気づけてくれる「県民栄誉章候補」が多く現れることを期待したいですね。



昭和50年4月の知事選で6選を果たし、だるまに墨を入れる小畑勇二郎氏。最初の名誉県民となった

（左矢野潤）